

# エアーニッポン株式会社所属 JA8384滑走路接触事故調査の進捗状況

## 1. 事故の概要

- |          |                         |
|----------|-------------------------|
| (1) 所属   | エアーニッポン株式会社             |
| (2) 型式   | エアバス・インダストリー式 A320-200型 |
| (3) 登録記号 | JA8384                  |
| (4) 発生日時 | 平成24年2月5日 09時03分ごろ      |
| (5) 発生場所 | 仙台空港の滑走路                |
| (6) 出発地  | 大阪国際空港                  |
| (7) 目的地  | 仙台空港                    |
| (8) 便名   | ANA731                  |



## (9) 概要

当該機は、仙台空港において着陸の復行を行った際、機体後方下部が滑走路に接触し、機体が損傷（後部圧力隔壁部分のフレーム損傷等）した。乗客及び乗務員計166名に死傷者はなかった。



※ 損傷の程度が大修理相当のため、航空事故に該当

## 2. 調査の状況

- (1) 機長、副操縦士及び客室乗務員の口述聴取
- (2) 管制官及び運航情報官の口述聴取
- (3) 事故機の調査
- (4) 滑走路の調査
- (5) 飛行記録装置(DFDR)及び操縦室用音声記録装置(CVR)  
の調査
- (6) 気象情報の収集

### 3. これまでの調査により判明した主な情報

#### (1) 機体の損傷状況

機体後方下部に、長さ約3m、幅約40cmの擦過痕があった。後部圧力隔壁のフレーム下部が露出し、圧力隔壁の下部に歪みが見られた。ドレインマスト(排水口)2本が変形していた。

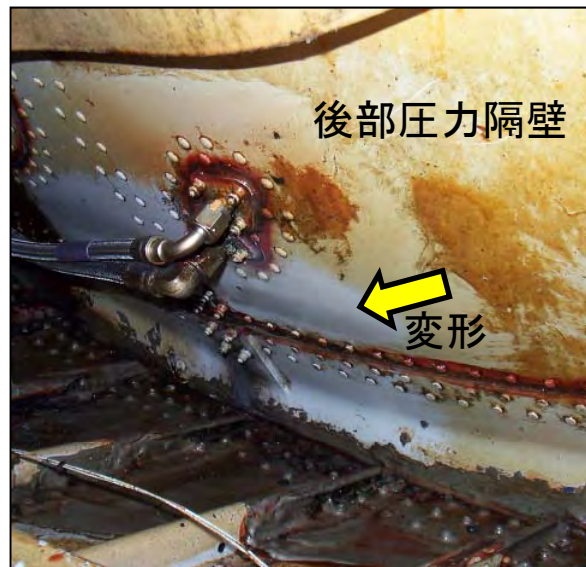
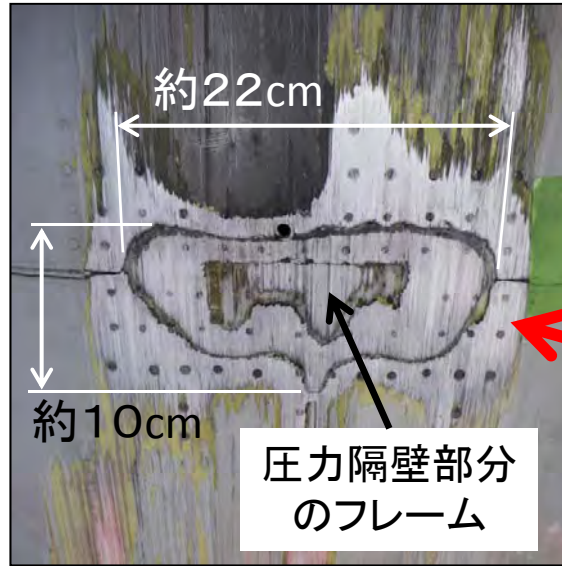
#### (2) 滑走路の状況

滑走路27進入端から約1,140m付近に、複数の白い擦過痕があった。最も大きな痕跡は、長さ約9m、幅約40cmで、他に2本の細かい筋があった。滑走路には金属片が残っていた。

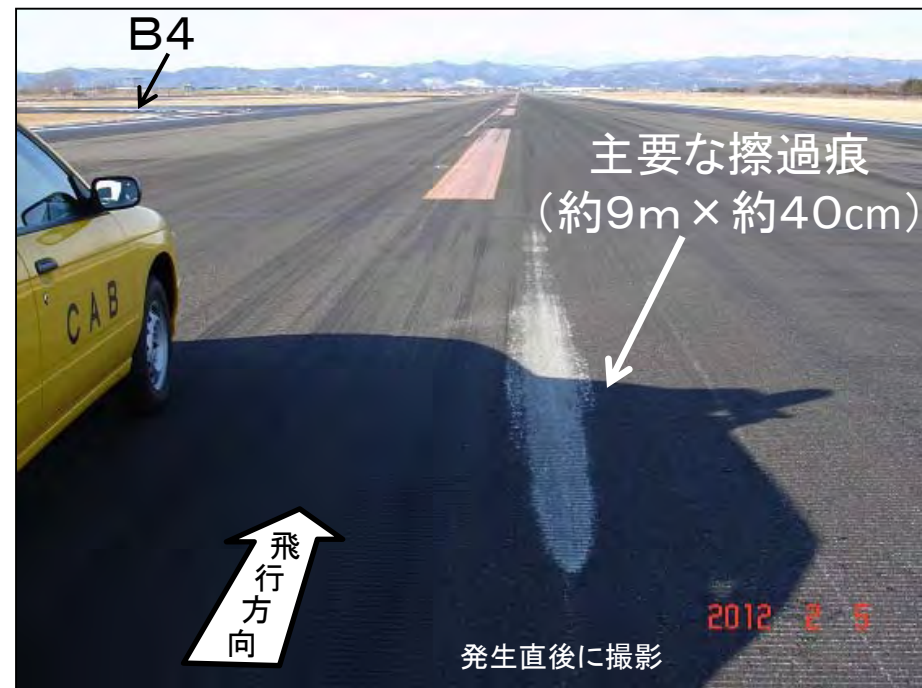
#### (3) DFDR及びCVRから判明した情報

左右の主輪は接地したが、前輪は接地していなかった。スポイラーが立ち上がり、自動ブレーキが作動した。その後、スロットルレバーが復行位置に進められた。その直後、ピッチ角 $12^{\circ}$ 以上に機首が上がった。約 $12^{\circ}$ ～ $14^{\circ}$ で接触することから、このとき、機体後方下部が滑走路に接触したものと推定される。

### 写真3 機体の損傷状況

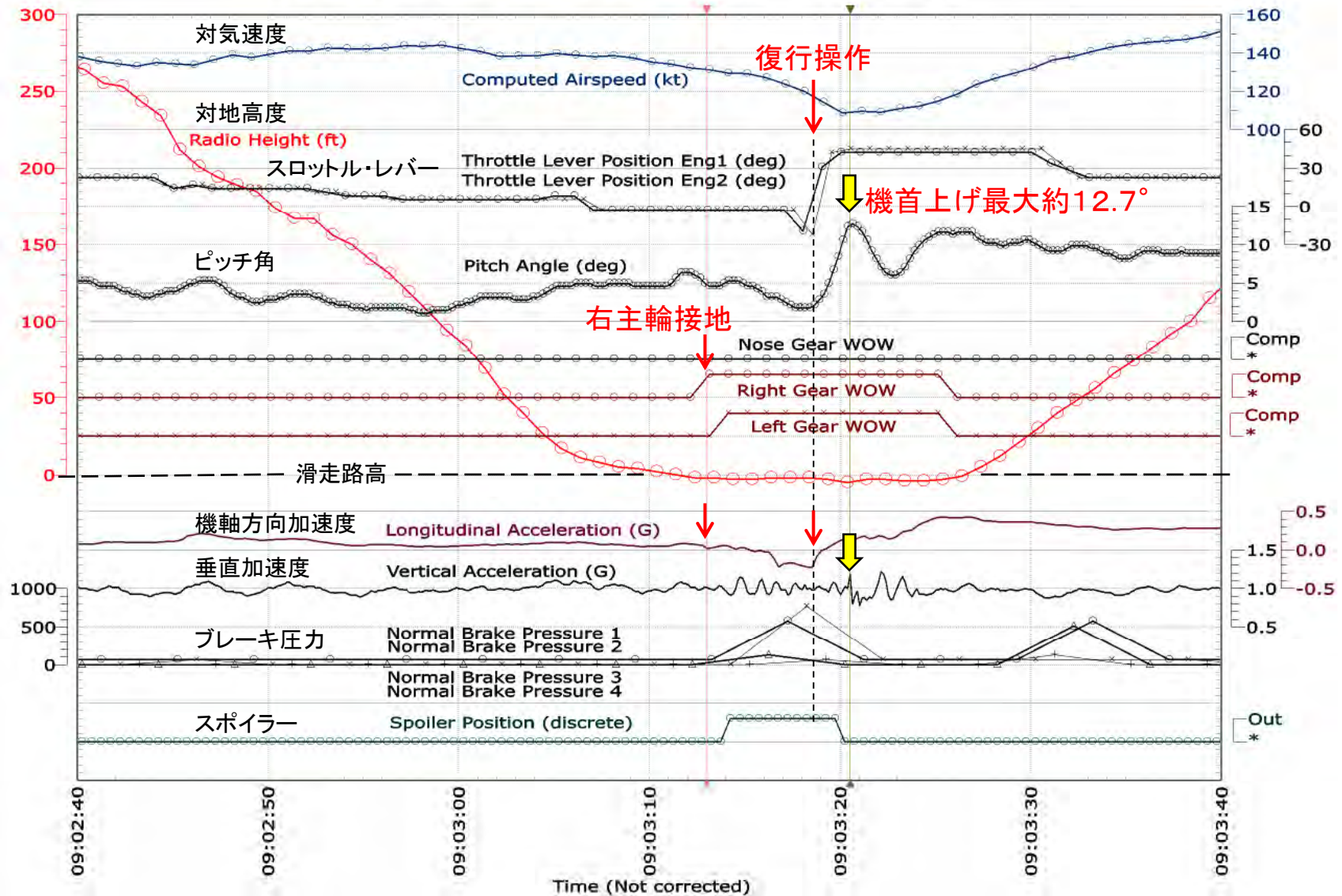


# 写真4 滑走路の状況



# 付図 DFDRデータ (※ 詳細な解析の結果により、今後修正することがあります)

JA8384\_A320\_Tail Strike\_Sendai Airport\_2012/02/05



#### 4. 今後の主な調査予定

(1) DFDRデータ及びCVR音声の詳細調査

(2) 着陸及び復行の手順等に関する詳細調査

(3) ピッチ角の変化に影響を及ぼす要素の詳細調査

→ 操縦操作、ブレーキ及びスポイラーの動作、各種自動制御等

(4) 気象データ、管制交信記録等の情報収集

#### 5. その他

機体の設計・製造国であるフランスの航空事故調査機関(BEA)

から代表の指名があった。